

第1回団体交渉報告

教職員のみなさん

組合は12月8日に第1回の団体交渉を行いました。法人側は神田和明総務担当理事が対応しました。

非常勤職員(パート・タイム及び契約職員)の雇用期限について、従来の「3年」から「4年」への延長を達成 (ただし、平成30年4月以降採用の職員にのみ適用) 組合は「5年」への延長および現職職員への適用を引き続き要求

平成30年4月以降施行される改正労働契約法に対応する非常勤職員の雇用期限の問題について、法人側は、現在、大半の非常勤職員(パート・タイム及び契約職員)に適用されている、「3年」雇用期限を「4年」とすることを骨子とする就業規則改正の提案を行いました。

組合は、従来から雇用期限を「5年への延長又は無期転換」にするよう要求してきたことから、一定の延長を含む提案がなされたことは評価しましたが、適用が平成30年4月以降採用の職員に限るなど、現在働いている非常勤職員の要望からはかけ離れていることから、①雇用期限を「5年」とすること ②非常勤職員の雇用期限見直しを平成30年4月以降採用の職員に限らず、現在「3年」期限で雇用されている職員にも適用すること、の2点を新たに要求しました。

しかし、法人は、例外的に雇用期間を「5年」としたり、非常勤職員を常勤職員に登用する制度もある、財政的な事情もあるなどの理由でこれを拒否しました。組合は、提案された「4年」の期限は、「5年又は無期」への延長を巡って交渉が行われている全国の国立大学の大部分の状況から見て、見劣りのする後ろ向きの雇用条件であることを指摘し、改正提案のさらなる見直しを要求しましたが、法人は、この改正は役員会で話しが進んでいるなど頑な姿勢に終始しました。

組合は、引き続き非常勤職員の雇用期間延長を含む待遇改善に取り組んでいきます。



平成30年度からの制度改革にともない、一部の教員に加重な負担が生じないよう、制度設計・運用を求め

平成30年度から都市デザイン学部、教養教育院の設置など大きく大学の制度が変わり、人員の縮小、非常勤講師の削減などが進んでいることから、例えば教養教育を担当する一部の教員からは、以上の大幅な授業負担が行われるのではないかと懸念が寄せられています。組合は、そのような状況であることを伝え、教員に加重な負担が生じないよう制度設計・運用を求めました。あわせて、教員が成り行きのままに過大な授業負担を負わされることがないように、標準的な授業負担について、法人側の考えを問合せましたが、これについての回答はありませんでした。今後も、改革の実施の中で、授業負担について予期せぬひずみが生ずるおそれがあります。組合は教員から広く意見を聴取し、状況を把握しながら問題提起をしていきます。

杉谷地区の入構ゲートの運用、五福地区の入構ゲート設置にともなう、通勤手当増額を要求

現在、五福キャンパスでは、平成30年4月から自動車の入構ゲートを設置し、一台につき月額1000円を徴収する計画が進められています。これに対して、組合は通勤のための自動車利用者に対しては、徴収額分の通勤手当を増額する要求を行いました。あわせて、すでにゲートが設置されている杉谷キャンパスについても、同様の要求を行いました。法人は、五福キャンパスについては、交通委員会で検討中の問題としており、通勤手当増額の要求については筋違いとして拒否の姿勢を示しています。

組合はまた、ゲートを設置する場合には公正な方法で業者を選定し、できるかぎり経費を節減する方向で設置・運用を行うことを求めました。この問題については今後の推移を注視し、通勤手当増額を要求し続けていきます。

8月の国家公務員に対する人事院勧告をふまえての要求を行う

例年この時期に、8月の人事院勧告をふまえて、給与（月例給、期末、勤勉手当）の見直し（勧告に準じれば若干の引き上げ）が行われることになっていますが、団体交渉の席では具体的な提案はありませんでした。法人は、すみやかに改正の提案を行うと言っており、提案を受けて改めて団体交渉を行うこととなります。組合は最低でも人事院勧告の給与改善の水準まで給与を増額することを要求しました。

杉谷地区における教職員組合事務室の設置を要求

杉谷地区の組合員の福利厚生の上昇のために、杉谷キャンパスにも教職員組合事務室の設置するよう要求しましたが、現時点では、検討したが場所がないとの回答でした。組合は、今後も継続的に設置を求めています。

この数年間、組合は団体交渉への学長の出席を求め続けてきましたが、学長は出席してきませんでした。現在のように、大学の制度、大学をめぐる環境が大きく変化している中で、よりよい労使関係、労働環境をつくりあげていくためにも、相互の理解は欠かせません。組合は、団体交渉という場にこだわらなくとも、他大学で行われている「学長懇談会」のようなかたちであれ、大学のトップと教職員が意見を交換する場を設けることを提案しました。

